

8月31日女川夏祭りで再エネ体験出店

おながわ市民共同発電所の高野博さんからの要請で、8月31日の女川夏祭りにきらきら発電が「再エネ体験コーナー」を出店。午前10時から12時までの午前中に再エネ体験を実施しました。きらきらからは水戸部・広幡夫婦・阿部夫婦・山岸・千葉の7名が参加。多くの一般参加者がきらきらの再エネ体験コーナーに寄ってくれて、お店は大繁盛。お客さんは風力発電や空気圧発電を体験。原子力発電所や火力発電所は水を沸騰させ蒸気力で発電しますが、今回の体験コーナーでは空気圧を蒸気の代わりにして発電。「原子の光」や「熊さんドラム」などで大喜び。仙台市議いのまた由美さん(太白区)も親子で参加。中央ステージでは竹浦の獅子振り(笛・太鼓付き)や大道芸・ギター弾き語りなどがあり、またあいコープがなべぶとんで料理したカレーを参加者に無料で提供してくれました。



8月26日Nスタみやぎがきらきら発電を報道

東北放送が7月7日の女川集会での青木美希さんの講演をきっかけに7月9日泉区北中山の広幡家取材され、8月11日には井土浜1号機の草取りやくぬぎの木の自然観察会(カブトムシ)取材されました。そして8月26日(月)Nスタみやぎで「地域に根ざした太陽光発電」という題で報道してくれました。地域の人々の自然観察会がきらきら発電の太陽光パネルと一緒に紹介され、私たちが努力してきた「地域に根ざす」姿が映像で伝わり、とてもうれしくなりました。また広幡家の太陽光発電と電気自動車によるエネルギー自立生活も紹介してくれました。水戸部理事長が録画したものをコピー(ブルーレイ)してくれたので、希望者に差し上げます。広幡宅に電話またはメールでお申込みください。



報告=広幡

9月21日泉区映画観賞会が大川小裁判「生きる」を上映

きらきら発電では7月7日の女川脱原発集会への参加にあわせて、津波被災地大川小学校を見学しましたが、泉区映画観賞会が9月21日日立システムズホール(旭ヶ丘青年文化センター)で、大川小の裁判記録映画「生きる」を自主上映します。時間は10時・13時・16時の3回。チケットは千円で販売しています。

大川小津波裁判は宮城県知事が控訴を石巻市にせまったため、高裁まで争われ、結果10年もの期間を要する長い裁判となりました。しかし仙台高裁が「宮城県沖地震用の避難計画と訓練が行われていれば助かった事故」と認定し、石巻市と宮城県は敗訴しました。安全でなければならぬ学校で、児童生徒を死なせてはいけません。そういう教訓を学ぶ映画でもあります。(広幡)

きらきら発電・市民共同発電所 ニュース
2024年9月119号
〒981-3215 仙台市泉区
北中山3丁目17-12
070(2010)3777
HP kirakirahatuden.com/
hirohata3888@outlook.jp

福島事故避難生活者の今 岡山からの報告

2011年3月東京で暮らしていて、東京電力福島事故の放射能汚染から避難され、岡山にたどりつき、現在岡山で避難者支援をされている服部育代様に講演を依頼しました。

10月20日(日) 9:30~11:30のオンラインで、9時入室可 参加 Zoom ミーティング
<https://us06web.zoom.us/j/85905697838?pwd=T1YU6Y3PuQHdYMXEeOIWCau8qhlhva.1>

ミーティング ID: 859 0569 7838

パスコード: 313192

参加申し込みのQRコードは右コードです。

参加費は無料、参加申し込みは10月15日まで。



仙台市環境局・消防局とメガソーラー火災について懇談

4月15日発生した西仙台ゴルフ場跡地の太陽光発電火災事故について、太白区のメガソーラー建設反対の住民集会の場で「パネルからの発火」と断定し「太陽光発電は怖い」と宣伝する人物がいることから、きらきら発電はその詳細を確認するため、仙台市環境局・消防局との懇談を8月30日行いました。参加は水戸部・太齋・広幡の3名。消防局より「4月15日西仙台ゴルフ場跡地のメガソーラーで火災事故が発生。13時43分に119番通報があり、宮城・泉両消防署が出動。4万㎡の下草(芝生中心)と発電パネル・ケーブルなどが焼け、芝生を中心に消火活動したら、パネル・ケーブルなども鎮火、消防作業は午後20時に終了。原因は現在調査中。」との報告を受けました。「電気機器類の火災に水は使えないと聞くが、実際はどうか」とこちらから質問すると、「電気機器火災の場合感電の危険性があるので、消防士は感電しないことを優先して消火にあたるが、放水しないわけではない。噴霧式の放水などを行うことも選択肢としている」という回答がありました。私たちは「原因が判明したらぜひ教えてほしい」と要望しました。

垂直型やフィルム式太陽光発電試運転開始

垂直型太陽光発電やフィルム式太陽光発電(ペロブスカイト)が試運転として開始または開始されようとしています。垂直型は宮城登米市のセブンイレブンで、ペロブスカイトは千代田区が秋葉原駅前で実証実験。

これらの試運転で、実績が積みまれ、一般家庭用や事業用に拡大していくことが期待されます。

南青 南経 2024年(令和6年)8月31日(土曜日) 経経 (6)

宮城と山形のセブンイレブン駐車場

垂直太陽光発電を実験

仙台市宮城郡登米市のセブンイレブン駐車場で、垂直型太陽光発電の実験が行われている。この実験は、限られたスペースで効率的に発電を行うことを目的としている。垂直型太陽光発電は、太陽の動きに合わせてパネルが自動的に回転し、常に太陽光を最大限に受け取ることができる。これは、従来の固定式太陽光発電よりも、特に冬場や曇りなどの日照条件が悪いときに効果を発揮する。また、パネルの傾斜角を調整することで、発電効率を最適化できるというメリットがある。この実験は、将来的に都市部や限られたスペースでの太陽光発電の普及に向けた取り組みの一環として行われている。

窓ガラスで発電ビル街脱炭素

東京・秋葉原に実験ハウス

東京都千代田区千代田の秋葉原駅前、千代田区立千代田図書館に「窓ガラスで発電ビル街脱炭素」の実験ハウスが設置された。この実験ハウスは、窓ガラスにペロブスカイト太陽電池を貼り付け、発電を行う仕組みで、街中のビル街に脱炭素を実現するための取り組みの一環として行われている。ペロブスカイト太陽電池は、従来のシリコン系太陽電池よりも、薄く、柔軟で、低コストで製造できるという特徴がある。また、可視光線の一部を吸収して発電を行うため、窓ガラスとして利用することで、建物への負担を軽減しながら発電が可能である。この実験ハウスは、将来的に都市部のビル街に導入されることを目指している。